

PIDユースケース検討 小委員会活動報告

田辺浩介 TANABE.Kosuke@nims.go.jp

物質・材料研究機構

技術開発・共用部門 材料データプラットフォーム データ基盤ユニット 主幹エンジニア

 <https://orcid.org/0000-0002-9986-7223>

2025年12月12日 RDUF公開シンポジウム

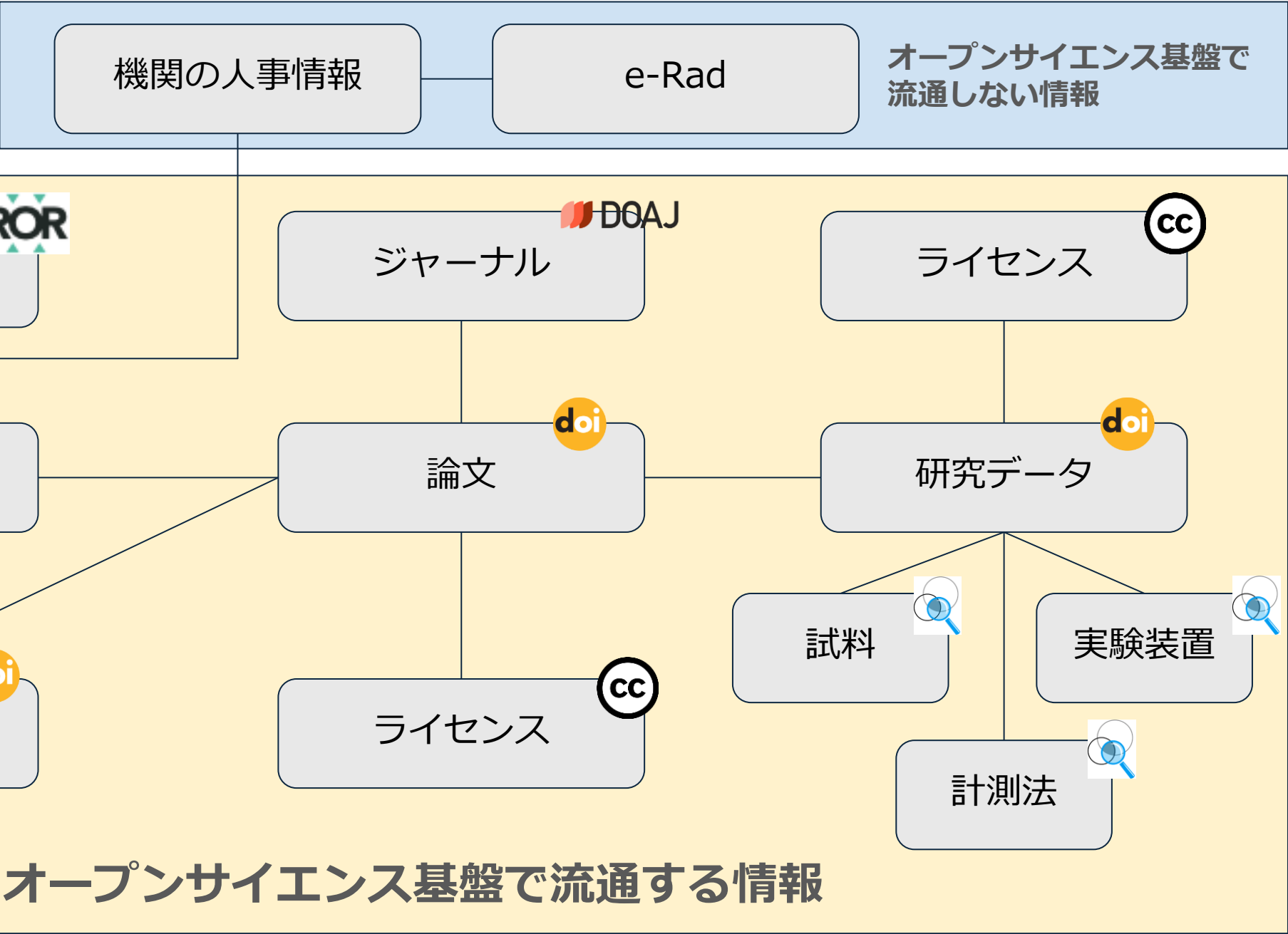
小委員会の目的

日本の学術研究の現場における、
国際的な PID利活用の
具体的なユースケースを作成する

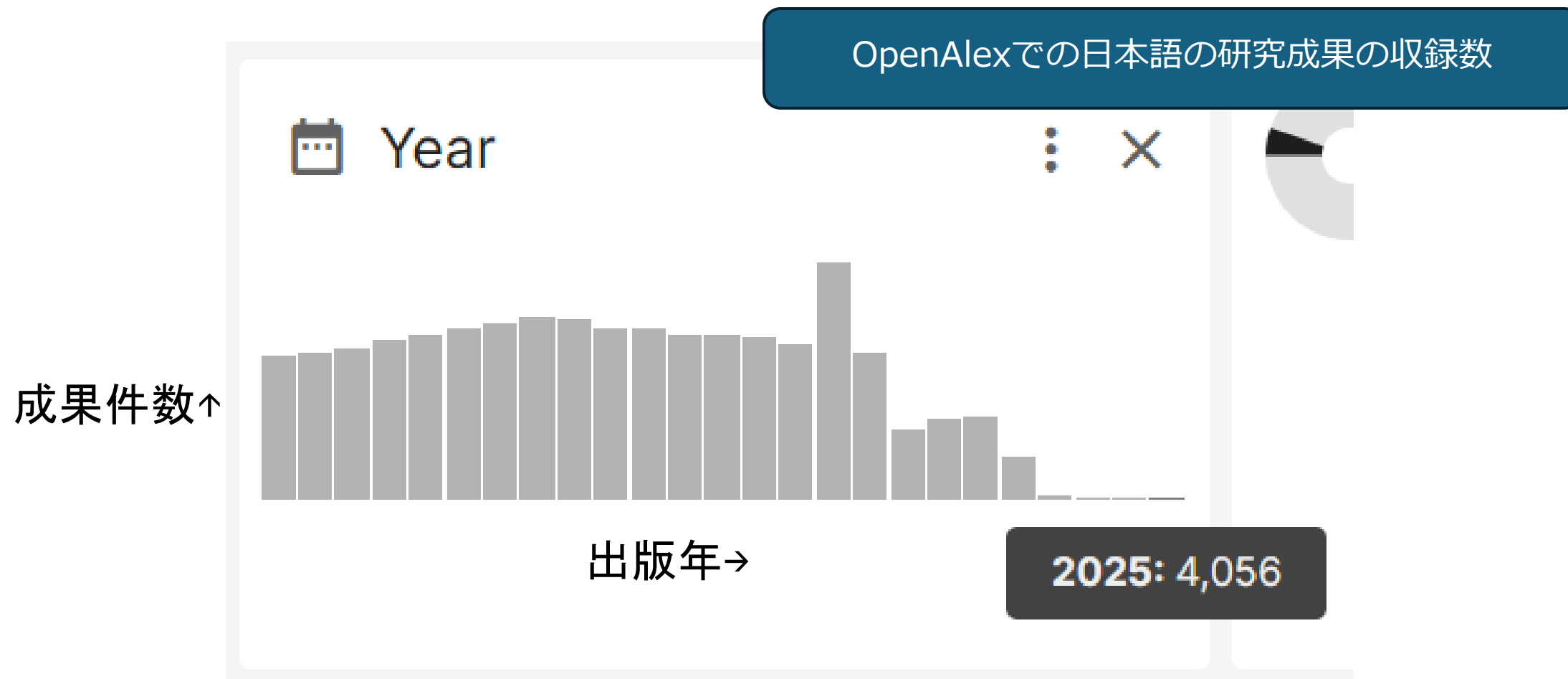
小委員会の背景

- 論文・研究データなどの研究成果物、研究者・研究機関、助成情報など、あらゆるものにPIDが付与されるようになっていく
- この取り組みには、国レベルでのPIDの導入戦略や適切なPIDの選定、導入までのロードマップの策定が求められる
- 一方で、PIDの導入や利活用に対するモチベーションはステークホルダーごとに異なっており、足並みを揃えることが難しい

PIDでつながる
研究活動や成果物



PID戦略の欠如により、 日本の研究成果の「見えない化」が露呈



<https://openalex.org/works?page=1&filter=language:languages/ja>

モチベーションの違いの例

- 研究者：研究成果を広めるためにPIDを付与したい
 - 自分の研究成果が広く利用されることが関心事。どのようにPIDを付与すればよいのかはよくわかっていない
- 図書館員：機関リポジトリでPIDを付与したい
 - PIDの付与作業そのものをどう行うのが関心事。PIDを用いた分析を行うことはほとんどない
- URA：研究評価のためにPIDを利用したい
 - PIDを用いた研究成果の検索や分析が関心事。自分でPIDを付与することはない

小委員会の進め方

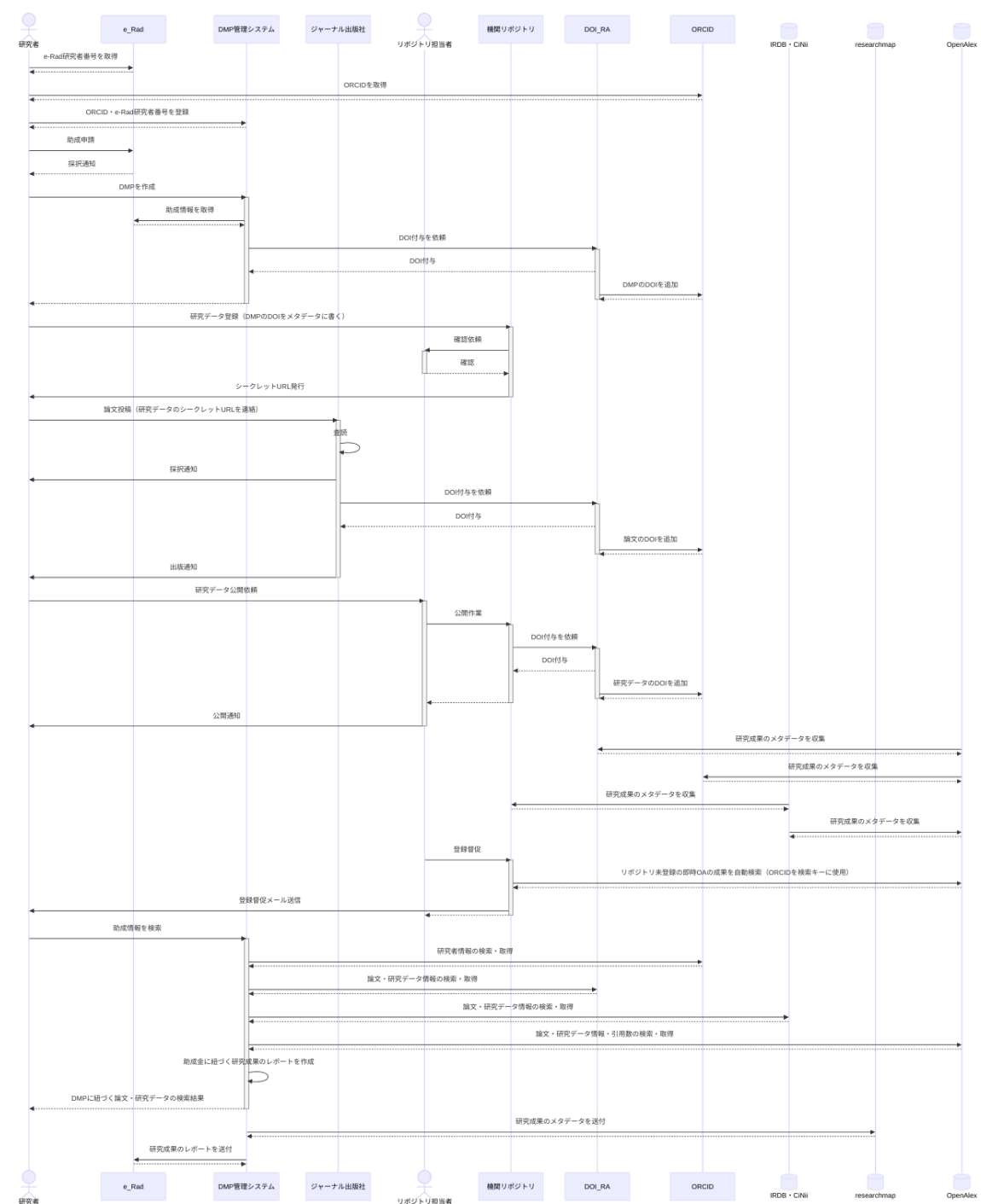
- 大学の研究評価における実務を題材に、書誌レコード・著者名・機関名に関する各 PID のメタデータ品質を分析する
- 助成金・装置などの PID についても、参加者の関心に応じてメタデータ品質を分析する
- 分析結果をもとにした各 PID の使用方法と実務的なメリットを整理し、報告書としてまとめる

今後の活動予定

- 各機関での業務・ユースケース分析
 - どのようなPIDを用いているか？
 - どのような業務でPIDが利用されているか？ 利用状況はどのようなになっているか？
 - 機関リポジトリや研究者データベースで、どのようなPIDがあれば連携を円滑に行うことができるか？
- PIDに紐付くメタデータの品質調査
 - 現在のPIDには、どのようなメタデータが紐付いているのか？
 - どのようなメタデータが欠けているのか？ それを補うために必要なものはなにか？

DMP(Data
Management Plan)に
PIDを付与し、
研究成果を紐付ける
ワークフローの案

- PIDによってDMPを
「書かされるもの」から
「研究活動の基盤」に
変える！
- 詳細はポスター発表で！



メンバー（2025年11月末現在）

- 矢吹 命大（横浜国立大学 経営戦略本部）
- 荻 多加之（福島大学 地域未来デザインセンター）
- 久保 琢也（信州大学 アドミニストレーション本部）
- 小野寺 夏生（文部科学省科学技術・学術政策研究所）
- 叢 艶（名古屋大学 情報基盤センター）
- 田辺 浩介（物質・材料研究機構 技術開発・共用部門材料データプラットフォーム）
- 南山 泰之（東京大学社会科学研究所）
- 林 和弘（文部科学省 科学技術・学術政策研究所）
- 中西 秀哉（総合研究大学院大学）
- 榎本 翔（東京大学情報基盤センター）

日本の研究成果の情報を世界につなぐ
意欲のある方の参加を
ぜひともお待ちしております！

連絡先: TANABE.Kosuke@nims.go.jp

<https://japanlinkcenter.org/rduf/subcommittee/index.html>